

# 【マジシャン】丸山 真一 Maruyama Shinichi

## マジックに精通している人も、そうでない人も、誰もが納得する「本物のマジック」を披露したい。

自在にトランプを操る圧倒的なカードテクニックとユーモアあふれる演出で、見る者すべてを魅了する新進気鋭のマジシャン・丸山真一。

業界からも脚光を浴びるカリスマカードディシャンの心に秘められたマジックへの思いに迫る。

—それが、今ではマジックを披露する立場になっていますね(笑)

名古屋の繁華街として知られる栄・錦。そこに、指先ひとつで見る者すべてを魔惑する、不可思議の世界へと誘う凄腕のマジシャンがいる。日本を代表するカードディシャン・丸山真一さんだ。セロや前田知洋など、有名マジシャンも過去の受賞者に名を連ねる日本最大のマジックコンテスト「JAPAN CUP」をはじめ、数々のコンテストで優勝するなど輝かしい実績を持つ。代名詞は、オリジナリティがあふれた高速カードテクニック『時速243km』。自身のマジック同様、その型破りともいえるマジシャン人生を歩んできた丸山さんに話を聞いた。

—なるほど。ちなみに、「イリュージョン」や「ステージマジック」など様々

なジャンルのマジックがありますよね。丸山さんは、その中でも少人数でのマジックショーを観に行つたんです。といっても、当時はマジックに興味があったわけではないですよ。むしろ、どちらかといえば否定的な考え方を持った方で。そもそも「デビットって誰?」くらいの認識でしたから(笑)。思つたんです。それに、せつかくなれば世界に通用しないと遅かったので、何かひとつジャンルに特化しなければならないと決していませんが、その理由は?

—そのひとつが、丸山さんの代名詞ともいえる、時速243kmの高速マジックですね(笑)

—なるほど。ちなみに、「イリュージョン」や「ステージマジック」など様々なジャンルのマジックがありますよね。丸山さんは、その中でも少人数でのマジックショーを観に行つたんです。といっても、当時はマジックに興味があつたわけではないですよ。むしろ、どちらかといえば否定的な考え方を持った方で。そもそも「デビットって誰?」くらいの認識でしたから(笑)。思つたんです。それに、せつかくなれば世界に通用しないと遅かったので、何かひとつジャンルに特化しなければならないと決していませんが、その理由は?

—そのひとつが、丸山さんの代名詞ともいえる、時速243kmの高速マジックですね(笑)

—マジックとの出会いを教えてください。

10年ほど前、世界的マジシャンとして知られるデビット・カッパー・フィールドのマジックショーを観に行つたんです。といっても、当時はマジックに興味があつたわけではないですよ。むしろ、どちらかといえば否定的な考え方を持っていた方で。そもそも「デビットって誰?」くらいの認識でしたから(笑)。思つたんです。それに、せつかくなれば世界に通用しないと遅かったので、何かひとつジャンルに特化しなければならないと決していませんが、その理由は?

—そのひとつが、丸山さんの代名詞ともいえる、時速243kmの高速マジックですね(笑)

—なるほど。ちなみに、「イリュージョン」や「ステージマジック」など様々なかつ樂しませる。それがマジックの魅力です。だから僕はマジックのタネとは関係のない何気ない動きひとつしても、ビジュアルにすぐこだわっています。視覚に訴えるのが一番わかりやすいですから。

—なるほど。ちなみに、「イリュージョン」や「ステージマジック」など様々なかつ樂しませる。それがマジックの魅力です。だから僕はマジックのタネとは関係のない何気ない動きひとつしても、ビジュアルにすぐこだわっています。視覚に訴えるのが一番わかりやすいですから。



マジックの技術はもちろん、その演出にも高い評価を受けています。輝かしい実績を残した今でも、日々の練習は欠かさない。

本物のマジックを見せる。それがプロもともとマジックを始めた時期が遅かつたので、何かひとつジャンルに特化しなければ世界に通用しないと決していませんが、その理由は?

—そのひとつが、丸山さんの代名詞ともいえる、時速243kmの高速マジックですね(笑)



### ◎プロフィール

群馬県出身。高校の数学教師として勤務する傍ら、趣味でマジックを始める。カードマジックを専門とし、アマチュア時代から数々のコンテストで優勝。2007年に満を持してプロデビュー。現在は名古屋を拠点にメディア、ショーやイベント等で幅広く活躍している。

—現在、コンテスト、ショー、イベントなどで幅広く活躍されています。丸山さんがいう「本物のマジック」を披露する機会は多々あると思いま

すが、やりがいなど、それぞれに違はないのでしょうか？

お客様から「凄い」と言つてもらえたのは素直に嬉しいです。しかし

極端な話をすれば、それはプロとして

当たり前のことで、だからという訳

ではないけれど、コンテストなどマジッ

クに精通している人の前で披露できることにも喜びを感じます。それぞれ目的が違うので、概には比較できませんが、マジックに精通している人もそうでない人も、誰もが「本物だ！」、「これは凄い！」と思つてくれるようなマジックを披露したいという思いだけは貫っています。

—10年という異例のスピードで現在の地位を築き上げた丸山さん。成功の

裏には、才能の言では片付けられない別の理由があるような気がします。

偶然なのか必然なのか、実は今までの自分の経験がすべてマジックに役立っているんです。例えば幼少の頃に習っていたバイオリンからは何時間もの練習を続ける我慢強さと指の動き、教師の経験からは人を注目させる話の方やプレゼン能力が活かされていました。これに関しては、自分でも本当に運がいいと思っています(笑)。

もちろん、練習も欠かしていません。1日たりともカードを触らない日はないし、それこそ20時間近くカードを触っている日もあります。常に

誰かが新しいコトに挑戦するなどマジックは日々進化していくものです。だから僕も新たな技術やディスプレイ、構成など、あらゆる可能性に挑戦しています。マジックに終わりはありません。

一日本を代表するマジシャンとして、今後のマジック界についてどのように考えていますか？

マジシャンという職業自体、まだまだ日本の社会的ステータスとしては低く見られている感が否めません。例えば、プロマジシャンでありますながら、簡単に「何かやってみて」といわれるような……。そういった余興的なものではなく、ひとつの文化として評価されてほしい。絵画を観たり音楽を聴いたりするのと同じような感動を感じてほしい。それこそショーやステージとして見てほしいのです。そのためには、僕たちマジシャンがしっかりと結果を残すこと大切です。個人的には、3年に1度開催されるマジック界のオリンピック「FISM」で勝利し、世界で認められるマジシャンになることを目標としています。

## —最後に、丸山さんにとってマジックとは？

人に感動を与えるためのマテリアル（材料）であり、自分自身への挑戦。そして何より、自分がここにいたという存在を相手の記憶に残せるもの。僕の存在を証明するための最大の手段がマジックなんですね。



マジックをひとつのショーとして考え、卓越したカードテクニックを交えて観客を魅了しながらマジックをするのが丸山さんのスタイル。

### Information 丸山真一 活動予定

全国各地のマジックショーやイベント、メディアなどで幅広く活動している。東海地区では現在、名古屋にあるマジックバー「手品師」の専属マジシャンとしてレギュラー出演中。

<http://ameblo.jp/maruyama-cards-shinichi/>  
※出演に関する詳細スケジュールは店舗までお問い合わせください

#### マジックバー 手品師

☎ 052 (951) 5177  
住所 中区錦3-9-15 サンロード錦ビル3階  
⌚ 19:00～翌1:00 休 日曜・祝日  
<http://www.tejinashi.net/>